

南佐久郡北相木村の植生

武 井 尚*

私が国立科学博物館の奥山春季先生から、植物調査の盲点となっている御座山付近の植物を調べてみたら、と言われたのは昭和37年（1962）のことであった。その年の7月27日、初めて御座山の登山をした。以後、白田営林署の許可を得、村当局の協力を得て、登山や村内の調査を平成10年（1998）まで行ってきた。途中、昭和61年（1986）10月“レポート日本の植物No.30”に中間発表をした。

北相木村は、長野県の東端にあつて群馬県境に位置し、関東山地から西に走る山嶺に囲まれた山村で、イチョウの葉形で東西に長く、村の総面積56.14平方キロのうち、91%が山林である。村の中心を東西に相木川が流れ、川に沿って県道が走り、昭和46年（1971）にぶどう峠が開通し、群馬県上野村へ自動車が行けるようになった。同村は、かつては太平洋側に面していたが、関東山地の隆起によって相木川は西行く千曲川に流れ込み、日本海側になったといわれている。昭和40年代まで相木川の川岸にカワノリのついた岩があったが、残念ながら護岸工事によって失われてしまった。

村の標高は、村の入り口の栃原が約920m、だんだん高くなり御座山頂が2112m。村は山地帯から亜高山帯に広がっている。

次に村の植生について述べる。

1. 太平洋側に多く見られる植物と日本海側に多く見られる植物が混在

例をあげると

イワトラノオ、オオバクロモジとクロモジ、アズマレイジンソウ、レンゲショウマ、コセリバオウレン、ヨゴレネコノメ、タマアジサイ、ヤマアジサイとエゾアジサイ、コミヤマカタバミ、セリモドキ、トウゴクミツバツツジ、アカヤシオ、フジウツギ、ニシキウツギ、キンレイカとハクサンオミナエシ、オクヤマコウモリ、カンスゲなど。

2. 本州中部以北に多い植物と関東地方以西に多い植物の混在

* 武井 尚 〒214-0037 川崎市多摩区西生田1-21-1

例をあげると

(1) 中部以北に多い植物

イワイヌワラビ、ネズコ、ノダイオウ、オオレイジンソウ、ミヤママタタビ、アイズシモツケ、エゾノタチツボスミレ、ヤナギラン、ゴゼンタチバナ、タニミツバ、コバノイチヤクソウ、オオガンクビソウ、アオヤギソウ、キバナノアマナ、フサガヤなど

(2) 関東地方以西に多い植物

フジシダ、サンヨウブシ、メギ、ヤマキケマン、ツメレンゲ、ギンバイソウ、コガネネコノメ、ヒメウツギ、ツルキンバイ、フモトスミレ、ノダケ、ヒカゲツツジ、ウスゲタマブキ、ヤハズハハコ、サルマメ、ミチシバ、ウチョウランなど。

3. 御座山頂の植物

山頂部は、名前が生まれたように長椅子状の岩盤に覆われている。標高2112m 亜高山帯に属する。生えている植物は、

ヒモカズラ、ミヤマウラボシ、ウラジロモミ、オオシラビソ、トウヒ、チョウセンゴヨウ、キタゴヨウ、コメツガ、シライヤナギ、ミヤマヤナギ、ヤエガワカンバ、ダケカンバ、ミヤマハンショウツル、コミヤマカタバミ、トウキ、イワセントウソウ、ミヤマウイキョウ、イワカガミ、コバノイチヤクソウ、コヨウラクツツジ、アズマシャクナゲ、ケナシハクサンシャクナゲ、チョウジコメツツジ、コケモモ、ミヤマムグラ、ミヤマコゴメグサ、タカネママコナ、ヒメシャジン、ヤハズハハコ、イワインチン、タカネニガナ、ウスユキソウ、ヤハズヒゴタイ、ショウジョウスゲ、ヒメミヤマウスラなど。

4. 分布上まれな植物

カラフトミヤマシダ、ビロードシダ、ミヤマウラボシ、ヒメバラモミ、キバナハタザオ、ヤシヤビシャク、スグリ、ザリコミ、サナギイチゴ、シナノクロウメモドキ、モイワボダイジュ、ノジリボダイジュ、ゲンジスミレ、ミヤマニガウリ、ミヤマウド、ヤマナシウマノミツバ、コイチヤクソウ、チョウジコメツツジ、ケ

ナシハクサンシャクナゲ、シナノアキギリ、ミヤママコナ、タチコゴメグサ、ヤハズヒゴタイ、ハゴロモホトトギス、アサツキ、ヒロハヌマガヤ、エゾカモジグサ、イヌカモジグサ、コアゼテンツキ。

5. 生えている帰化植物

全部あげると

ヒメスイバ、エゾノギシギシ、ハイミチヤナギ、ノミノツヅリ、イヌビユ、アオゲイトウ、ハルザキヤマガラシ、マメグンバイナズナ、コニシキソウ、メマツヨイグサ、オオマツヨイグサ、オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、ヘラオオバコ、ブタクサ、アメリカセンダングサ、ノボロギク、ヒメムカシヨモギ、ヒメジョオン、ヘラバヒメジョオン、ハルジョオン、オオアワダチソウ、オニノゲシ、アカミタンポポ、ハキダメギク、コカナダモ、なお、アメリカアゼナ、クワモドキ、トゲヂシャ、オオハンゴンソウは1998.8.24に初採取。

6. 人為的にもたらされた植物

(1) 神社仏閣参拝の記念に植えられたと思われる植物
下新井の集落から山道（旧道）を登って、三滝に行く途中、山道を登るきる手前右側の道路わきにユリノキの大木がある。

ユリノキは明治初期に北アメリカから渡来した樹木。参拝記念に植えたものと考えられる。なお三滝周辺にはスギの大木が十数本みられるが、これも植えられたものかもしれない。

(2) 逸出植物の野生化

全部あげると

ムシトリナデシコ、ザボンソウ、ホウキギ、オランダガラシ、ショカツサイ、ツルマンネングサ、ゼニアオイ、オウバイ、ヒレハリソウ、オオセンナリ、ビロードモウズイカ、セイヨウノコギリソウ、バラモンジン、ハナガサギク、キクイモ、ニラ、ナツズイセン、ミョウガ

(3) 道路工事でもたらされた土や砂と一緒にもたらされたと思われる植物

いずれも道路脇に生えていた。

ツキミセンノウ、ウマゴヤシ、ミヤコグサ、タチオランダゲンゲ、カワラヨモギ、シナダレスズメガヤ

(4) 明治・大正時代に軍馬の飼育が行われていた。その飼料と一緒に移入されたと思われる植物

ムラサキツメクサ、シロツメクサ、ネズミムギ、ホソムギ、カモガヤ、ヒロハノウシノケグサ、オニウシノケグサ、シラゲガヤ、オオアワガエリ、オオカニツリ

(5) 村の産業振興・薬用・食用のために道路脇や山地に植えられた植物

これは昭和25年から32年まで村長を勤めた井出仁雄氏の話

カラマツ、スギ、ヒノキ、メタセコイヤ、ビャクシン、クロヤマナラシ、コウゾ、モモ、スモモ、サイカチ、クロバナエンジュ、ハリエンジュ、メグスリノキ、キササゲ、キリ、セイヨウタンポポ

村内の各地に生えているセイヨウタンポポは、薬用にとわざわざ佐久のほうから採ってきたとの話。また、ウルシの木も植えたが枯れてしまったとのこと。この村には、カキノキは見あたらない。

7. 多く見られるカエデ科の植物

日本のカエデ科の野生種の27種（日本の野生植物1989）のうち、18種が見られる。

アサノハカエデ、ホソエカエデ、チドリノキ、ミツバカエデ、ウリカエデ、カジカエデ、ヒトツバカエデ、カラコギカエデ、ハウチワカエデ、コミネカエデ、メグスリノキ、テツカエデ、オオモミジ、ウリハダカエデ、オオイタヤメイゲツ、コハウチワカエデ、ヒナウチワカエデ、オガラバナ、その他変種、品種にイタヤカエデ、ウラゲエンコウカエデ、オニイタヤ、イトマキイタヤ、ウスゲオガラバチ